敗　戦　８０年　声　明

～非戦を誓った「憲法９条」を守り

「新たな戦前」の時代認識にたち共に闘い抜こう！～

２０２５年８月１５日、敗戦から８０年を迎えた。９条連は先の大戦で犠牲となった３００数万人の人々の死に深い哀悼の意を表します。今後も一切の戦争政策に反対し、二度と戦禍を繰り返させないため非戦・非核の立場を明確に、その燈火を絶やすことなく邁進していく決意である。

現在、世界各地では権力者の覇権争いによって戦争・紛争は後を絶たない。イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区のジェノサイド（大量殺戮）・深刻化する飢餓状態、イスラエル・イランの報復戦争、未だ出口の見えないロシア・ウクライナ戦争などにより、多くの無辜の命が奪われていることに強い憤りを禁じ得ない。

一方、２０１４年には自民党政権下で立憲主義を蹂躙し閣議決定のみで「集団的自衛権の行使」を容認する暴挙を行った。そして、矢継ぎ早に「敵基地攻撃能力の保有」そして「統合作戦司令部」の発足など米国との軍事体制をより一体化させ海外での武力行使を無制限に可能にした。その結果「専守防衛」を有名無実化させ、戦争放棄を誓い合った憲法９条を死文化させたことは言うまでもない。そして、日本政府は中国による「台湾有事」を吹聴し、北朝鮮の長距離弾道ミサイルの脅威を煽り立て、南西諸島を軍事要塞化し軍事大国化に大きく舵を切った。今、日本の平和主義は戦後最大の危機に直面している。

敗戦８０年を迎え、私たちは「新たな戦前」を迎えていることに目を逸らさず「力の論理」が支配する時代に、時計の針を逆戻りさせてはならない。そのために私たちは過去の大戦で亡くなった数多くの人々の血と命の犠牲の上に生まれ、不戦を誓った「日本国憲法」の精神を堅持し、広範に広めていくことが更に求められている。「戦争を引き起こすのは人間であり、戦争を終結させるのも人間である」そのことを私たちは肝に銘じ、再び戦争の惨禍を繰り返さない不退転の決意を示し、アジア・近隣諸国と共に生きる未来を展望しなければならない。

日本国憲法の前文では「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と記載されている。これは敵対でもなく、争いでもなく、排除でもなく、お互いを認め合い、尊重した中で信頼関係を築く日本の平和戦略が謳われている。つまり、戦争や紛争のない世界平和を実現させるための宣言が日本国憲法であり、憲法９条であることを、今こそ全世界に発信する時だ。

８月１５日敗戦の日、９条連は結成３０年を迎える。私たちは結成当初に誓い合った「先覚者が拓いた平和主義の道を世界の公道に」すべく、愚直に運動を推し進めてきた。今後も日本国憲法が指し示す崇高な平和理念こそが世界人類の進むべき道であることに確信をもち、広範なネットワークを築き上げ世界の恒久平和を実現させるため歩み続けていく。共に奮闘しよう！

２０２５年　８月１５日

「憲法９条」－世界へ未来へ連絡会（９条連）